

吉岡さんの後ろに、それこそ福島地下水の元みたいな水源地があつて隣の朝日さんとの間に水量豊富な川が流れ出している。

朝日さん前に県道に沿って、福島の消防ポンプ置き場があつたし、自慢の鉄製の火の見櫓が立っていた。

福島消防組について

福島消防組の出来たのは、明治三十二年七月であつた。

最初は、江の島村福島消防組と称して、後の根上村周辺で最初の消防組であつた。

当時の消防ポンプは、子供たちは、ガッチャンポンと呼んだ人力のポンプであつた。

火災が起きるとポンプに引き繩をつけて、火災現場に駆けつけるもので、それはそれは勇ましい消防組であつた。

職務手当ては、組頭が年手当て十円以内、小頭、五円以内、消防手は十五銭以内。出場手当ては、組頭、二十五銭以内。小頭、二十銭以内。消防手、十五銭。等であつた。

望火台は、当初、高さ、八間の杉丸木柱で大きな梯子を付け、警鐘及び警柝を備えていた。

高い梯子の先についている半鐘を鳴らして見たい子供たちは、ゴムのパチンコでよく狙って鳴らしたものである。

そのポンプ置き場の建物の二代目か三代目は、現在、林さんの地所に、移築されて残っている。

朝日さんの地所の南西の隅に、茶屋と呼んだ「下駄屋」があつた。昔は下駄の「歯入れ」して何年も使用するのが当たり前であつたから、下駄屋の親父さんは結構、忙しかった。

隣の林さんは、古物を扱っていた、その当時はどんなものでも大切に使つたから、古物は骨董品ばかりでないので、繁盛した商売であつた。

沖田さんは、酔の醸造店で「白山酔」、は有名なブランドであつた。

福田さんは、古くからの機業場で、多くいた「福田姓」の本家筋の家であつた。

